

所属・氏名（ 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名：佐藤 良樹 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (報告・発表) Impact of Cognitive Decline on Swallowing Function and Diet Selection Authors	共著	2025 年 10 月	IALPMalta Congress 2025 - 33rd World Congress 開催地は「マルタ共和国 ヒルトンマルタ (Hilton Malta)」。	認知機能と嚥下機能に関する発表を行った。 <u>Yoshiki Sato</u> , Kana Miyamoto, Tomoyuki Haji, Tukasa Takeue, Yuta Nakao, Ken Iwanaga
2 (報告・発表) 交叉性失語症における発語失行の音響学的解析	共著	2025 年 6 月	第 26 回日本言語聴覚学会 in 山形 開催地は「やまぎん県民ホール、山形テルサ」。	交叉性失語症の発語失行を音響分析にて解析した 齋藤千加, 坂本芙月, <u>佐藤良樹</u> , 兒玉成博, 小浜尚也
3 (学術論文) Exploring sex differences in auditory saliency: the role of acoustic characteristics in bottom-up attention	共著	2024 年 10 月	BMC Neuroscience	論文全体の概要: 音響特性が聴覚のボトムアップ注意に与える影響について男女差を検討した結果、女性は基本周波数、男性は音の強度に敏感であることが示された。 25, Article number: 54 Naoya Obama, <u>Yoshiki Sato</u> , Narihiro Kodama, Yuhei Kodani, Katsuya Nakamura, Ayaka Yokozeki, Shinsuke Nagami
4 (学術論文) ボトムアップ性聴覚性注意検査法開発に向けた予備的検討	共著	2023 年 9 月	言語聴覚研究	論文全体の概要: 注意機能の性差を考慮した新しいボトムアップ性聴覚性注意 (BAA) 評価法開発に向けて、予備的検討を行った。研究結果より、トップダウン性注意の影響を最小限に抑えた若年層における新しい BAA 評価法を提案した。 20 巻 3 号 pp.139-147 <u>佐藤 良樹</u> , 小浜 尚也、永見 慎輔、横関 彩佳、秋定 健
5 (報告・発表) ボトムアップ性聴覚性注意検査法開発に向けた予備的検討	共著	2022 年 6 月	第 23 回日本言語聴覚士学会 in にいがたにて発表。 開催地は「朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)」。	概要: 注意機能の性差を考慮した新しいボトムアップ性聴覚性注意 (BAA) 評価法開発に向けて、予備的検討を行った。研究結果より、トップダウン性注意の影響を最小限に抑えた若年層における新しい BAA 評価法を提案した。 <u>佐藤 良樹</u> 、小浜 尚也、永見 慎輔、伊勢 眞樹、秋定 健
6 (報告・発表) 左視床損傷後の Apathy 症例に対し目標指向型アプローチを行うことで生活機能改善が実現した一例	共著	2020 年 11 月	第 44 回日本高次脳機能障害学会学術総会」にて発表。	概要: 左視床損傷により重度の Apathy を呈した症例に対して、Apathy 治療における目標指向型アプローチの有効性が示唆された。 <u>佐藤良樹</u> 、横関彩佳、小浜尚也、伊勢眞樹

令和 8 年 4 月 14 日 現在